

1.121 | 2.16.6 | 6 | 0 | 1.1.1.1 | 1.1.1.1.1.

ヨラチキ オヨルチヨ | オヨラバ ハシイカラ

216.6 | 6 | 0

ヨラツカ | 五

寄合
雀のよりやひ チウチウ バイバイ

これによりても おこるなよ
加ハリテモノ意

おこらば初めから よらんがえ
加ハラマがヨイノ意

この謡は子供(主に女兒)の集り、鬼ごつこして

遊ばんとするにあたり、まづ鬼を定むる必要あり、

依りて子供は、各自の手の掌に袖を乗せ、圓形を

造り、一人が手先にて この拍子に合せつゝ、各

々の袖の上を打つ、一度この歌を歌ひ終りたるど

同時に、打たれたる者は 鬼たるを免るゝなり。

人数丈この歌をくり返し歌ひて、誰か一人、最後

まで残る。残りたるものが鬼となり 他は皆人と

なりて鬼ごつこが始まる中々おもしろし。

盛岡地方の手毬歌お手玉歌

盛岡 山村 材美

一、大海日大晦日三十日の晩に、一夜源之助が、か
るたに負けた負けた負けたは、幾許ほど負けた、金
が三兩に、小袖が七ツ、七ツ七ツは十四の事よ、お
らも其時、十四であつた、おらが姉さん三人御座
る、一人姉さん太鼓が上手、二人姉さん鼓が上手
いツちよのが下谷に御座る、下谷一番伊達者で御
座る、五兩で帯買て三兩で紵けて、紵け目紵け目
へ七總さげて、折り目、折り目へ口紅さして、今
年始めて花見に出たら、寺の和尚に抱きとめられ
て、よしやれ、放しやれ、帯切りしやるな、帯の
切れるは、厭いは無いが縁の切れたは結ばらぬ、

前で結んで後でめてみた所へ、「いろは」と書いて、
 「いろは」子供たちや、伊勢伊勢参る、伊勢の長者
 の茶の木の下で七ツ小女郎が入ッ子を生んだ、産
 ひにや産まれず、下すにや下りず向ふ通るは隣者
 ではないか、薬片なら袂に御座る、此を一服煎じ
 て吞ましょ、虫も下りれば、此の子も下りる、假
 令、其の子が女子であれば寺へのぼして學問させ
 て、京へのぼして狂言さして、寺の和尚が道樂和
 尚で高き椽から突き落されて、鎌倉、落し、笄落
 し、御仙や、お仙や、お仙女郎、其方の挿したる
 笄は拾ふたか貰ふたか美しくしや、美しくしや拾ひも
 貰ひも、いたしません、お仙の針箱、あけて見たら
 ば、雌鳥、雄鳥中よし、こよし、ひッひッしらッが
 い、ほらほら、ほらの貝御目出度や御盃
 二、えじよま、えじよまき、えじよさんどん、し

のびはどん、さいだかどん、どんせと、えせがみ
 さん、此處は船場の盛はどん、一や。二や。三や。
 四。五。六に。七。八。九ツ十、御白しろしろ白
 木屋の、お駒さん、才三さん、門には條八色男、
 一ツ御前に一ツちよ貸し交した。

三、向ふ横町の御稻荷さんへ一寸拜んで、お仙の
 茶屋へ腰を掛けたら、澁茶を出して澁茶、よくよ
 く、横目で見たらば土の團子か米の團子かおだん
 こだんご。



左の調査表は、鹿児島縣師範學校教諭寺内顯氏より送附せられ
 たるものにて、調査表につきての附説は、垂水小學校新納新哉
 氏の記されたるものなり。子供の思想界につきて頗る面白き事
 實を見るを得べし。